

平成20年度の重点目標達成に向けた具体的取組の内容

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評 価 の 観 点	達 成 度 判 断 基 準	判 定 基 準	備 考
1 学習指導の充実 (個に応じた指導により、基礎基本の定着と学力の増進を図るとともに、チャレンジ精神を涵養しながら、各コースの特性を活かした進路指導の充実を図る)	授業の改善と、基礎学力の充実 教材を工夫し、わかりやすい丁寧な授業を実施する。	教務課 各教科	生徒が興味関心を持つ教材を選び、生徒の理解度を高めようと努力しているが、学力や学習意欲に多様性が見られる。	【満足度指標】 授業が分かりやすく、丁寧に行われていると感じている生徒が増加している。	単元終了後の感想として A 興味関心が高まり、よく理解できた。 B 興味関心が高まり、ある程度理解できた。 C 興味関心は持てなかったが、ある程度は理解できた。 D 興味関心が持てず理解も不十分であった。	A + Bが60%未満の場合授業方法等を再検討する。	6月、年度末に生徒にアンケート調査を実施する。
	前・後期、各1回校内公開授業週間を設け、研究授業・研究協議会を充実する。また、研究授業における協議内容を全職員に報告する。	教務課 各教科	現在年2回の公開授業週間があり、他教科の授業も含め参観の機会が設けられているが、各教科で生徒の学力到達度や授業改善に向けた検討が必要である。	【努力指標】 校内公開授業週間等を通して、積極的に授業参観を行う。また、各教科において研究授業・研究協議会を実施し、授業改善へ向けた具体的な取組について検討する。なお、研究授業における協議内容については、全職員に報告する。	授業改善について A 他の教員の授業を参観し、教科会等で授業改善への研究協議が月1回以上行われている。 B 他の教員の授業を参観し、教科会等で授業改善への研究協議が3ヶ月に1回程度は行われている。 C 他の教員の授業は参観したが、教科会等で授業改善への研究協議は行われなかった。 D 他の教員の授業を参観することもなく、授業改善への取組が教科としてはなされなかった。	A + Bが60%未満の場合、改善を検討する。	6月、年度末に教員対象に調査する。
	家庭学習の定着をねらいとする効果的な週末課題を与え、提出状況を評価に加味する。	教務課 各教科	年度当初、国・数・英を中心に学年ごとの年間計画を決め、教科ごとに2週間に一度程度の週末課題を与えている。	【成果指標】 週末課題に意欲的に取り組むことにより、家庭学習習慣が確立されている。	課題の提出率が A 80%以上である。 B 60%以上である。 C 40%以上である。 D 40%未満である。	80%未満の場合改善を検討する。	6月、年度末に教員、生徒対象に調査する。
	個に応じたきめ細かな指導により、成績上位層の学力の増進を図る。	進路指導課 各教科	生徒の学力や学習意欲が多様であるため、上位層の学力を伸ばすためには、個別的な指導が必要である。	【成果指標】 添削指導等の個に応じたきめ細かな指導により、成績上位層が増加している。	成績上位層が年度当初より A かなり増加した。 B やや増加した。 C ほとんど変わらなかった。 D 逆に減少した。	CまたはDの場合指導方法を検討する。	外部模試等で、上位層の動向を確認する。
	進路指導体制の確立と進路目標の早期設定 小論文委員会を設置し、チャレンジ精神を培えるよう3年間を見通した小論文指導を行う。	進路課 学年会 国語科 小論文委員会	小論文模試の実施と小論文講座を開講しているが、3年間を見通した系統的な指導を始めている。	【努力指標】 小論文委員会の計画に基づき、1年次から小論文の意識付けをしっかりと行う。また、教師側の研修を定期的に行って、指導のためのスキルアップに努め、全員体制の小論文指導を目指す。	[生徒] 本校における小論文指導に意欲的に取り組むことが出来た。 A 意欲的に取り組むことが出来た。 B まあまあ意欲的に取り組むことが出来た。 C あまり意欲的に取り組むことが出来なかった。 D 意欲的に取り組むことが出来なかった。 [教師] 小論文指導の研修会や指導力向上のための情報交換会などに参加したことが A 大いに参考になった。 B まあまあ参考になった。 C あまり参考にならなかった。 D 参考にならなかった。	A + Bが60%未満の場合、改善を検討する。 A + Bが60%未満の場合、内容を再検討する。	6月、年度末に生徒に調査する。 年度末に教員を対象に調査する。
	キャリア・カウンセリング及びインターンシップを推進させるために面接週間を設け、キャリア教育の充実を図る。	進路課 学年会	4月と9月に年2回面接週間が計画されて、生徒との面接を実施しているが、生徒に個人差があり、充分とはいえない。	【満足度指標】 生徒が担任との面接を通じ、自己の進路、将来の職業について、できるだけ具体的な目標を持つ。	担任との面談を通して、自己の進路についてより具体的な考えを持つことができたと思う生徒が A 80%以上である。 B 60%以上80%未満である。 C 40%以上60%未満である。 D 40%未満である。	60%未満の場合内容を再検討する。	年度末に、生徒対象に調査する。また、担任を対象とした確認も行う。
	大学との連携を図り、進路意識を高める。	国際課 進路課 教務課	外国語の言語や文化に対する興味・関心を高めるため、授業内容を工夫し、年間様々な行事を実施している。	【満足度指標】 大学との連携を密にすることにより、より専門的な学問知識を身につけ、外国文化に対する興味・関心を深める。	高大連携により、より専門的な学問領域について、興味・関心を持てたか。 A 大変、興味・関心を持てた。 B まあまあ興味・関心を持てた。 C あまり興味・関心を持てなかった。 D 全く興味・関心を持てなかった。	A + Bの合計が、70%未満の場合、内容や実施方法を検討する。	行事終了後及び年度末にアンケート調査を実施する。

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評 価 の 観 点	達 成 度 判 断 基 準	判 定 基 準	備 考
2 望ましい生活習慣の確立 (通学マナーをはじめとする社会規範を守り、遅刻や欠席を減らし、登下校時等の挨拶を励行するなど、基本的な生活習慣の確立を図る)	基本的な生活習慣の確立と社会的規範意識の育成 定期的な通学指導を行い、通学マナーを身に付けさせる。	生徒課 全職員	バスの乗車マナーは徐々によくなっているが、自転車のマナーについては、交通ルール違反がまだ見られる。	【成果指標】 バスの乗車マナーや自転車の通学マナーがよく身に付いている。	バスの乗車マナーや自転車の通学マナーの状況について A 非常に良い。 B まあまあ良い。 C あまり良くない。 D 良くない。	A+Bの割合が、70%未満の場合取組を再検討する。	教職員アンケート、保護者アンケート、生徒アンケートで調査する。
	家庭との連携を図りながら、服装、頭髪、化粧などの身だしなみ指導(生徒心得の遵守)を全職員で行う。	生徒課 全職員	定期的な登校指導・服装検査の他に、終礼時、学年主体の正副担任による服装検査を実施している。頭髪については、全体としてよくなっている。	【成果指標】 生徒が服装・頭髪などの身だしなみが「自分を表しているもの」であるという自覚を持ち、身だしなみに関する生徒心得を遵守している。	服装容儀において違反する生徒の数が全体の A ほとんど0%である。 B 5%以内である。 C 10%以内である。 D 10%以上である。	違反する生徒が、10%を超えた場合、指導方法を再検討する。	定期的に調査する。
	遅刻した生徒への日々の指導(多い生徒に家庭への連絡など)を通し、絶対遅刻しないという意識付けをし、基本的な生活習慣の確立を目指す。また、「遅刻防止週間」を毎月1回以上設け、遅刻半減を目指す。	生徒課 学年会	遅刻者数は、「早朝登校」や「放課後の居残り指導」などによって減少してきたが、さらに減らす必要がある。	【成果指標】 遅刻者数が前年度に比べ半減している。	前年度に比べ遅刻数が半減したクラスが全体の A 8割以上である。 B 6割以上である。 C 4割以上である。 D 4割未満である。	達成したクラスが6割未満の時、再検討する。	定期的に調査する。
	登下校時や授業の始業・終業時等の挨拶の励行を図る。	生徒課 全職員	朝の「あいさつ運動」等を通して挨拶の奨励を行っているが、自ら進んで挨拶できる生徒の数はまだ少ない。	【成果指標】 登下校時や授業の始業・終業時等の挨拶が積極的になされている。	登下校時等に積極的に挨拶をする生徒の割合が全体の A 8割以上である。 B 6割以上である。 C 4割以上である。 D 4割未満である。	CまたはDの場合改善を検討する。	教職員アンケート、保護者アンケート、生徒アンケートで調査する。
3 心豊かな人間性の育成 (自主・自律の建学精神のもと、ボランティア精神や環境保護の精神を培い、地域社会から信頼される心豊かな人間性の育成を図る)	地域連携と情報発信 地域と連携し、人間としての在り方・生き方の自覚を深める教育を実施する。	各教科 学年会	近隣の中学校と連携し、生徒会活動、各教科の授業等において、人間としての在り方生き方の自覚を深める教育を中心とした道徳教育を進めている。	【満足度指標】 人間としての在り方生き方を考える機会を持ち、考えを深めることができている。	人としての在り方生き方について考えを深めることができたと感じる生徒が全体の A 80%以上である。 B 60%以上80%未満である。 C 40%以上60%未満である。 D 40%未満である。	Dの場合改善を検討する。	年度末に、生徒対象に調査する
	地域の施設で奉仕活動を行う学校設定科目「ボランティア活動」を効果的に推進する。	生徒会	学校設定科目「ボランティア活動」について生徒に情報を提供し、単位修得をさらに奨励する必要がある。	【成果指標】 奉仕活動の意義を理解し、単位修得を目指す生徒が増加した。	単位修得を目指す生徒が対前年度比 A 大幅に増加した。 B やや増加した。 C ほとんど変わらなかった。 D 減少した。	CまたはDの場合、事前指導の内容や実施方法等を再検討する。	年度末に「ボランティア活動」の単位取得者数を確認する。
	開かれた学校づくりを推進するため、カリヨンニュースやホームページを通し、積極的に情報を発信する。	総務課 教務課 各課	カリヨンニュースの発行により積極的に広報を行っているが、ホームページの更新はやや遅れている。	【成果指標】 ホームページの更新を適宜行い、積極的に情報を発信している。	ホームページの内容の改善、更新が A 適宜行われ、確実に情報が発信された。 B ほぼ行われた。 C やや滞ることがあった。 D あまり行われなかった。	CまたはDの場合改善を検討する。	6月、年度末に教員対象に調査する。
	エコ活動を推進し、「学校版環境ISO」の取得を目指す。	環境保健課	エコセンターの設置、エコ委員の活動等によりエコ活動を推進している。	【成果指標】 生徒・職員全体がエコ活動に積極的に取り組んだ。	生徒・職員全体のエコ活動の取組は A 非常に積極的であった。 B 概ね積極的であった。 C やや消極的であった。 D 非常に消極的であった。	CまたはDの場合改善を検討する。	教職員アンケート、保護者アンケート、生徒アンケートで調査する。

4	部活動・生徒会活動等の活性化 (部活動・生徒会活動を通じ、たくましい心と体を培い、積極的に活力ある人間の育成を図る)	部活動・生徒会活動等の活性化 1年生には全員の部活動に参加するように促し、部活動を活性化させると共に、全学年を通じた体力の向上を目指す。	生徒会 学年会	部活動を推進する気運はあるが、生徒の反応は不十分である。途中で止める者が多い。運動部への参加率が低い。	【成果指標】 全体では5月段階、1・2年生は11月段階で9割が部活動に加入している。	全生徒の加入率が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	C以下の場合には途中からの参加を強化する。	部員調査を4月、6月、11月に行う。
			体育科 生徒会	体育の授業で毎年、持久走を行っているが、体力・運動意欲の低下がみられる。	【成果指標】 ランニングロード(1周130m)における、男子20周の平均タイム12分30秒、女子10周の平均タイム7分30秒を目指す。	男子12分30秒以内、女子7分30秒以内の生徒が、 A 70%以上である B 60%以上である C 50%以上である D 50%未満である	C以下の場合には、トレーニング方法を再検討する。	授業中に随時、タイムを測定する。
		地域に根ざした学校づくりを推進するため、生徒会が中心となりボランティア隊を組織し、ボランティア活動を奨励する。	生徒会 学年会	年間4回、近隣地域・通学路を、部活動単位や生徒会がしばしば清掃を実施している。	【成果指標】 積極的に参加し、意欲的に活動している。	ボランティア活動への部員の参加率が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	Dの場合、ボランティア清掃への参加を強く呼びかける。	実施毎に調査する。
	生徒一人ひとりが充実感・達成感をもてる生徒会行事を、企画・運営する。	生徒会 学年会	新入生歓迎会・スポーツ大会・学園祭等を実施しているが、積極的な参加が得られていない。	【満足度指標】 生徒会行事の充実感・達成感があった。	行事終了後の感想として A 充実感・達成感が大いにある。 B 充実感・達成感がある。 C 充実感・達成感がない。	A+Bの合計が80%未満の場合、内容の再検討をする。	終了後にアンケート調査する。	